

一書えらさば、牛に汗し棟に充るとも盡すべからず、故にこれを省く、中世に及て、宇多天皇の皇子敦實親王の孫參議扶義近江の守となる、扶義の末葉佐々木秀義當國の主となつてより、子孫相續して封をうくる、承久の役、佐々木信綱關東の催促にまたがひ戰功あり、故に信綱北條が爲に寵せらる、信綱が長子を泰綱といふ、佐々木六角の祖なり、次子を氏信といふ、佐々木京極の祖なり、六角家は織田信長の爲に亡され、京極は上坂、淺井等が爲に國除かる、太閤秀吉一統の後、秀次をもつて八幡山に居しめ、近江中納言と號す、いくほどなく秀次都にのぼり、秀吉も薨じぬ、神祖一統の後諸將をもつて其地に封じたまへり、

〔淺井三代記 十八〕信長卿江北仕置之事

信長卿淺井が侍降人と成、忠節をはげます者共をよび出し、所領を被下ける、磯野丹波守には高島一郡を下されぬ、阿閉淡路守には伊香郡一郡を給はり、堀次郎いまだ幼少たるにより、家臣樋口三郎兵衛に坂田郡半郡を被下、扱木下藤吉郎秀吉には、今度のほねをり分淺からずとて、江北の守護所と被成、小谷の城に、淺井郡に坂田郡半分、犬上郡を被下ける、

〔淡海落穂集 一〕往古當國の國司三拾六人の名前

- |          |        |                           |        |        |                           |
|----------|--------|---------------------------|--------|--------|---------------------------|
| 一 建部山城主  | 建部左京進  | 一下之郷城主                    | 多賀豊後守  | 一小脇村城主 | 三井石見守                     |
| 一 肥田村城主  | 高野瀨備前守 | <small>高野瀨喜介は此末なり</small> | 一和田城主  | 伊庭能登守  | 一北町村城主                    |
| 主 池田宮内大夫 | 一 堅田城  | 山田豊前守                     | 一城不知   | 川曲主水正  | 一同 和爾藤                    |
| 九郎       | 一 平井城  | 平井加賀入道                    | 一 八町城  | 大和田隼人正 | 一城不知                      |
| 一同       | 高島越中守  | 一 土田城主                    | 土田縫殿之介 | 一 猿木城主 | 猿木左近大夫                    |
| 一 梅ヶ原城主  | 福島和泉守  | 一                         | 朽木修理大夫 | 一 中野城主 | <small>青木一族</small> 蒲生藤三郎 |
| 一 菩提寺城主  | 青木參河守  | 一 羽田城主                    | 後藤但馬守  | 一 馬淵城主 | 馬淵越中守                     |